

タンス作りに夢

アビリンピック出場が決まり、昨年5月に競技の課題が発表された。仕事が休みの日には、かつて寮にいた春日井市の同職業訓練所まで行き、練習を重ねてきた。電車とバスを乗り継いで約一時間半かかった。

大会当日、後輩42人がバスで応援に駆け付けてくれた。大勢の人が見つめる中、5時間で課題の長さ90ミリ、幅250ミリ、高さ90ミリの本箱を

だないが、昨年の「第五回国際アビンピック」の「家具製作（基礎）」部門で金賞を受賞。周りの見る目が変わった。

業訓練所（春日井市）の木工科を修了し、昨年4月、江南市の家具製作会社に就職した。会社では一番の若手。一人で任せてもらえる仕事はま

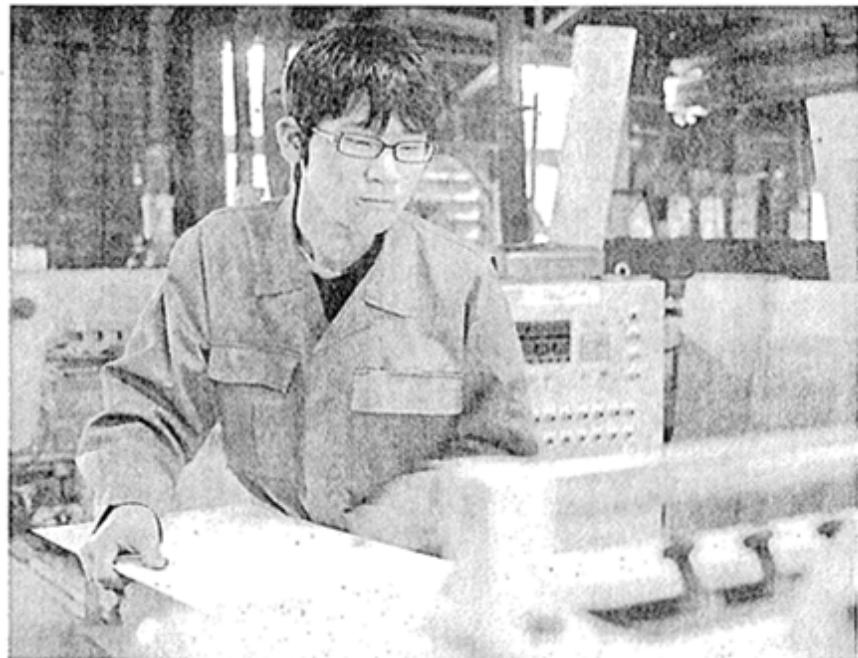
住宅地の一角にある作業場、自動かんな盤のそばに立つ。向こう側から先輩が通す。合板を受け取る。たんすに伸う板を削り、厚さをそろえる。作業だ。

杉戸正輝さん(17)

(基田寺町)

はばたく
平成

3



真剣な表情で作業をする杉戸さん(高橋龍帆撮影)

今後の目標は「小さくても、なんすを一人で作れるようになること」。はにかみながら答える後ろで、「がんばりや。筋がいいし、一つ

ので、必ずメモを取る。作業着のポケットに手帳を持ち歩く。社内の人の名前、機械や部品は縁付き。手帳は3冊目になつた。

殊支援学級の担任に電話で報告し、うになり、「よかつたなあ」と声をかけてもらつた。ほめてもらえたのが誇らしかつた。

社会人生活では、障害者だから許されるという甘えを禁じている。機械や手順はなかな頭に入らない

すると実感がわいた。中学生の時、教えてもらっていた特大丈夫」と大倉照彦社長(60)がほほえんだ。(館林千賀子)

国際アーリンピック 4年に一度、障害者が職業技能を競う国際大会。昨年11月に静岡市で開催された第7回大会には34の国と地域から約910人が参加。婦人服の洋裁など30種目で技能を競った。日本は12種目で金賞を獲得した。原則22歳以下の若者が技能レベルを競う「技能五輪国際大会」も同時期に静岡県沼津市で開催された。